

決議 学問の自由・思想信条の自由と大学の自治を蹂躪する大学への脅迫を断じて許さない

朝日新聞の従軍慰安婦報道問題に関連して、元朝日新聞記者が非常勤講師として講義を行っている北星学園大学（札幌市）に対して、従軍慰安婦に関する記事が「捏造」であるとする勢力から「彼を辞めさせろ」とメールや電話が集中している。そのなかには、「止めさせなければ大学に危害を加える」という暴力的な脅迫も含まれている。記事とはまったく関係のない記者の家族の写真までがインターネット上でばら撒かれ、「自殺に追い込む」との脅迫がなされている。卑劣で許しがたい人権侵害であり、違法行為である。

もともと、この元記者は今年4月から神戸松蔭女子学院大学（神戸市）に赴任する予定であった。しかし今年1月にある週刊誌が「“慰安婦捏造”朝日新聞記者がお嬢様女子大教授に」という記事を載せ、それに反感を抱いた勢力が、大学に抗議の電話やメールを送り、結果として元記者と大学の雇用契約は解消されてしまった。今回は、これらの勢力の攻撃の矛先が北星学園大学に転じたのである。

同様の攻撃、脅迫は、さらに、従軍慰安婦の強制連行に関する記事を書いた別の元朝日新聞記者が教える帝塚山学院大学（大阪狭山市）にも加えられた。9月に入ってから「元朝日新聞記者の教授を辞めさせなければ学生に痛い目に遭ってもらう。くぎを入れたガス爆弾を爆発させる」という趣旨の脅迫文書が送られ、同元記者は退職を余儀なくされた。

これらの卑劣な行為はごく一部の勢力が行っていると考えられるが、彼らの行動を助長している社会的背景には、右派メディアやいわゆるインターネット右翼らによる自らの価値観に合わないものを徹底的に排除しようという危険な動きがある。最近の「朝日新聞バッシング」はその典型で、「売国奴」「国賊」などのレッテルをはった脅迫や恫喝は、アジア太平洋戦争前夜を彷彿とさせる。このような暴力的な脅迫による言論弾圧は断じて許されてはならない。

北星学園大学は、今回の卑劣な「言論テロ」に対して、「学問の自由・思想信条の自由は教育機関において最も守られるべきものであり、侵害されることがあってはならない」、「大学の自治を侵害する卑劣な行為」に「毅然として対処する」との基本的立場を表明している。学問の自由・思想信条の自由と大学の自治は表裏一体のものである。科学の正しい発展を求め、自由と民主主義を否定するものと闘ってきた日本科学者会議は、北星学園大学の以上の基本的立場を全面的に支持し、大学への脅迫を断固として許さないために広範な大学人・市民と連帯することを宣言する。

2014年10月26日

日本科学者会議 50期第3回常任幹事会